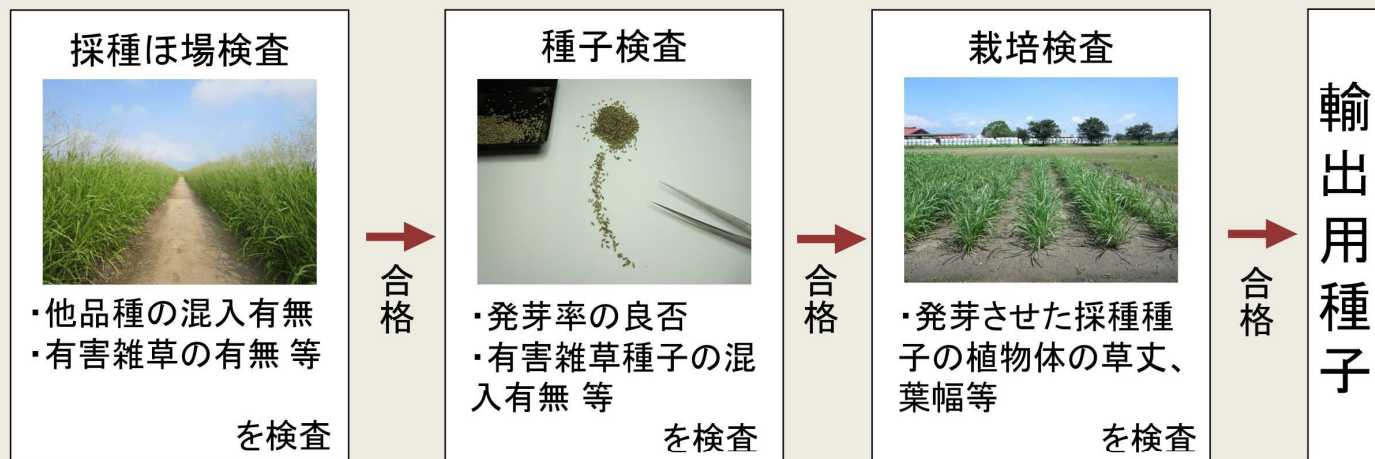


飼料作物種子の採種と検査

日本国内で育成された飼料作物品種の種子は、国内で小規模な採種を行った後、海外で大規模な採種を行うことで、国内の流通量を確保しています（2段階の採種）。

採種にあたっては、以下の3つの厳格な検査すべてに合格した種子が、輸出用の高品質な種子として認められます（OECD種子品種証明制度）。

熊本牧場ではこれらの検査で品質チェックを行い、イタリアンライグラス、エンバク、ギニアグラス等の輸出用の種子（海外採種用の元種子）を生産・供給しています。



ギニアグラス採種におけるDNA品種識別技術の活用

飼料作物の採種では、作付けした採種対象の品種とは異なる特徴を示す、他品種と疑われる個体が見つかることがあります。ギニアグラスでは、疑わしい個体の正体を識別するため、DNA解析が行われます（下図）。熊本牧場では、解析により他品種と判明した個体は、確実に除去し、異種子の混入を未然に防ぐことで、輸出用の高品質な種子を生産しています。

